

### 12月9日(土)差別のない明るいまちづくりをめざして「菊池市まちづくり人権フェスティバル」

菊池市文化会館で、市内外から約 1,000 人が参加して、菊池市まちづくり人権フェスティバルがありました。

人権週間に合わせて行われたもので、大ホールでは小・中・高校生による人権作文発表のほか、山鹿人権擁護委員協議会や女性団体代表者会による啓発劇、菊池市少年少女合唱団による人権の歌などが披露され、参加者に感動を与えました。

また、解放社会学研究所の江嶋修作氏による講演では、差別（いじめ）の仕組みについて、実体験をもとに分かやすく解説され、多くの参加者の共感を呼びました。

その他、小ホールではパネルなどの展示、玄関前では JA 菊池女性部による食バザー、菊之池校区人権啓発推進会議による人権の花の販売、出店希望団体によるバザーもありました。

最後に人権に関する熱いメッセージを 500 個の風船に託し、参加者で空高く一斉に放ちました。

文化会館であった菊池市まちづくり人権フェスティバル



### 12月2日(土)剣道を通して日韓の交流～釜山・創新館道場と南ソウル大学生が菊池市を訪問～

韓国・釜山の町道場創新館（李椿炯「イ・チュンヒョン」館長）の一行 20 人（南ソウル大生を含む）が菊池市を訪問し、菊池南中武道館で菊池郡市剣道連盟（菊池弘徳会長）との稽古会と親善試合を行いました。

試合は大学生 8 人、一般 9 人（女性 1 人を含む）で行われ、大学生の部は兵役を終えた選手を揃え、体力に勝る南ソウル大が熊大剣道部員と対戦し、4 対 0 で圧勝しました。一般の部は地元有志と対戦し、接戦の末 3 対 0 で地元チームが勝利しました。

また、夜の交流会には、福村市長、津留国際交流専門員も同席し、和気あいあいの中、交流の輪を広げ、再会を誓い合いました。

この剣道を通じた国際交流は、釜山市の培正（ページュン）高校が菊池高校剣道練成会に参加したことで始まり、今年で 10 年目を迎えました。一般の交流会も 5 回目を迎えています。

稽古会で汗を流す日韓の剣士たち



### 12月12日(火)菊池市養護老人ホーム「こすもす荘」で交流会

老人ホーム「こすもす荘」で、入所者と新明保育園（旭志）の園児との交流会があり、4～5 歳児の園児ら 29 人による踊りが披露されました。

「ちえっこよされ」など全部で 8 曲の踊りがあり、園児たちはきれいな衣装を身に付け、プロ顔まけの踊りで入所者の目を釘付けにしていました。最後には、入所者を代表して自治会長の竹下さんから「おじいちゃんとおばあちゃんたちは、とても楽しかったです。どうもありがとうございました」とお礼の言葉があり、それに対し園児たちは「ありがとうございました。また遊びに来ます」と元気な声で答えました。

入所者は、ひと足早いクリスマスを味わうことができ、大満足の様子でした。この交流会は、10 年以上前から続いているもので、毎年 2 回あっており、子どもたちも入所者もたいへん楽しみにしているものです。

交流会の最後に、園児たちと別れを惜しんで握手する入所者たち



### 12月23日(祝)第9回九州地区漢字カルタ大会

九州地区漢字カルタ大会が福岡であり、福本保育園（塚本美津代園長）の園児たちが優秀な成績を収めました。

同園では、昔ながらの伝承遊びを子どもたちにつなげていきたいという思いから、保護者と職員が一丸となってカルタや百人一首の練習に取り組んでいます。

大会は九州各県より 160 人が集う中で行われ、緊張する園児もいる中、上位独占というすばらしい成績を残しました。上位の入賞者は次のとおりです。（敬称略）

なお、入賞者は、2月に東京で開かれる全国漢字カルタ大会に参加します。

▼ことわざカルタ（年少の部）優勝 池田 澄、

準優勝 中尾真優、3位 茶園優斗

▼同（年中の部）準優勝 石橋 仁、4位 西本颯希、

5位 田中未来

▼俳句カルタ（年少・年中の部）

優勝 西本颯希、

準優勝 石橋 仁、

3位 田中未来、

4位 ハーリントン・

アレクザンダー、

5位 福田大輝



優秀な成績を納めた福本保育園の園児たち

### 11月28日(火)熊本県堆肥生産技術コンクールで富納有機生産組合が熊本県賞

熊本県堆肥生産技術コンクールで富納有機生産組合（東 敏則代表）が熊本県賞を受賞しました。

良質な畜産堆肥の利用促進を図り、堆肥の品質向上と生産技術レベルの底上げを目的に、県が毎年行っているものです。

同組合は、過去 9 年間の熊本県堆肥共励会入賞者 22 組織・個人などの中から選ばれたもので、熊本県賞は最高賞にあたります。

東代表は「堆肥利用者の声に耳を傾け、堆肥の利活用が促進されるよう、より一層励んでいきたいです」と話されました。

同組合が作る堆肥「クイーン堆肥」は、菊池グリーンロード沿いの東牧場や道の駅泗水養生市場などで販売されています。

堆肥舎で作業を行う東代表



### 12月6日(水)JA女性部お天馬会が菊池高校で「食育活動」

JA 女性部お天馬会（葛原清子会長）が、菊池高校で午前 7 時 40 分～午前 8 時 15 分までの間、朝食を取らずに登校してきた子どもたちに、同会手作り味噌の味噌汁と、菊池米のおにぎりを無料提供しました。

現代日本人の食生活が「飽食」から「崩食」になり、朝食を取らずに登校してくる幼稚園児から中・高生たちが急増していることを懸念し、日本食の味と食により健康維持ができることを伝え、文教菊池にふさわしい子どもに育ててほしいとの願いを込めて行われたものです。

同校も、心の健康を重要視し、生徒たちの健全な教育現場に努めており、この取り組みを快く受け入れて実現しました。

特設の食堂には、朝課外授業を終えた大勢の生徒たちが訪れ、「お

ばちゃん、味噌汁だけ食べてもいいね?」「おにぎり美味しい」と話しながら朝食を取り、笑顔で「ごちそうさまでした」と言いながら元気に教室に戻って行きました。



お天馬会の会員たちが作った朝食をおいしそうに食べる生徒たち

### 12月5日(火)平成18年度「熊本の心」作文コンクール

「熊本の心」（助けあい・励ましあい・志高く）をテーマにした作文コンクールの表彰者が発表され、菊池市からも 4 人が選ばれました。4,800 通の応募の中から選ばれたものです。

熊本の心とは「心豊かで潤いに満ちた郷土熊本を築いていくために、県民一人一人が持ちたい心」として熊本県が提唱したもので、日常生活の中で心のあり方としてお互いに相手を尊重し、協働・共有の相互扶助、志高くなる心を持ちながら主体的に明日に向かって生きていく精神を表しています。菊池市の受賞者は次のとおりです。（敬称略）

なお、特別賞の表彰式は、2月 20 日（火）に八代ハーモニーホールで行われます。

▼熊本県賞 松本夏奈（菊池農高 2 年）▼熊本日日新聞社賞

石原克子（◎ 今）▼優秀賞 宮木江利子（菊池農高 1 年）

▼入選 洲上麻里（菊池農高 3 年）



写真左から、松本さん、石原さん、宮木さん、洲上さん

### 12月6日(水)故増田義孝さんに国から特旨叙位として「正六位」

本市の名誉市民で、昨年 8 月に亡くなられた増田義孝さんに、国から特旨叙位として「正六位」が遺族の増田和典さんに伝達されました。

故増田義孝さんは、昭和 38 年 2 月から昭和 53 年 1 月までの 15 年間、旧泗水町の町長を歴任され町の発展に多大なる貢献をされました。

また、昭和 56 年には「泗水塾」を創設し、自ら塾長として農業後継者を中心とした人づくりを目指すなど、将来の農業振興に輝かしい功績を残されました。

氏の人柄と長年の功績が称され、平成元年に泗水町名誉町民の称号が授与され、合併後も名誉市民として引き継がれていました。

故人の輝かしい功績について、ここに改めて敬意を表します。



「正六位」を手にする故増田義孝さんの遺族、和典さん